

科目名 ナンバリングコード	総合実習 NUS4498MN7	必修科目	4年次 1学期	実習	2単位
科目責任者	医学部看護学科 准教授 舞弓 京子				
科目担当者	医学部看護学科 加悦 美恵、桐明 あゆみ、佐藤 祐佳、椛 勇三郎、跡上 富美、加藤 陽子、草場 知子、河原田 康貴、姫野 深雪、福浦 善友、渡邊 理恵、藤好 貴子、孫田 千恵、前野 里子、宮本 いずみ、水落 裕美、三次 貴大、岡村 光子、永田 真理子、新 裕紀子、松島 亜希子、南條 妃咲、山下 寛子、山田 泰子、池上 明由美、石橋 秋奈、森永 朗子、小島 一将、他専任教員				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>保健医療福祉活動チームにおいて看護師が果たす役割を学び、看護をマネジメントできる基礎的能力を身につけることができる。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護体制を理解し、看護チームの一員としての看護を実践する。 2) 看護倫理に基づき患者や家族のニーズに応じた看護を実践する。 3) 看護実践における記録の重要性を理解し、チームの一員としての責務を果たす。 4) 臨床における医療安全管理と看護管理について理解できる。 5) 保健医療福祉活動チームにおける、健康上の問題解決のための包括的アプローチとサポートシステムについて理解する。 6) 看護者としての自己の課題を明確化することができる。 				
授業計画					
実習期間・場所	実習内容	準備学習（予習・復習等）		必要時間	
2022年6月13日（月）～2022年6月24日（金） 2週間（90時間） 久留米大学病院 久留米大学医療センター	病棟の指導者と担当教員による指導を受けながら、看護チームの一員として、複数の患者を担当し、看護を実践する。	<ol style="list-style-type: none"> 1) 総合実習は、4年間のまとめとしての実習になる。3年次までのポートフォリオを振り返り、自己の課題を明らかにして、課題克服のため積極的かつ主体的に実習に臨む。 2) 看護管理実習における貴重な体験が、より効果的な学習につながるよう、看護管理の科目を選択し、事前学習を深める。 3) 学生生活最終の実習がより充実した実習になるように総合実習の目的・目標を熟読し、準備学習、既習の看護技術の復習を行い臨む。 4) 実習病棟の指導看護師との事前打ち合わせによって明らかになった課題に取り組んでおく。 		<p>毎日の経過記録 60分程度</p> <p>翌日の計画立案 30分程度</p> <p>必要に応じ受け持ち患者のケアに付随する病態、看護技術の学習 60分程度</p>	
テキスト	指定したテキストなし				
参考書	実習内容を充実させるために、今まで活用した教科書や講義時の配布資料などを活用すること。				
成績評価					
方法（割合）	基準				
実習内容（80%）	教育目標 / 到達目標への到達度をポイント化し、評価する。				
実習態度（20%）	実習中の態度、カンファレンスへの参加度などにより評価する。				
課題（レポート等）に対するフィードバック	記録物は返却しないが、学生と実習内容を振り返る。				

科目名 ナンバリングコード	地域生活支援実習 PHN3416MN8	選択科目	4年次	実習	5単位
科目責任者	医学部看護学科 教授 重松 由佳子				
科目担当者	医学部看護学科 佐藤 祐佳、椛 勇三郎、小島 一将				
教育目標 到達目標	<p>教育目標</p> <p>1) 地域（職域、学校含む）で生活する人々（個人・家族・集団・組織）への健康支援活動（疾病予防、健康の維持・増進、健康回復）を通して、公衆衛生看護活動における保健師の役割・機能を理解する。</p> <p>2) 保健師活動の全体像を捉え、保健活動の基礎を修得する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 公衆衛生看護活動が展開される様々な場（行政、職域、学校など）の特性を把握し、行政機関・法人・民間諸施設の位置づけ、役割・機能について述べるができる。</p> <p>2) 地域で生活する対象（個人・家族・集団・組織）を統合的に捉え、それぞれの対象（個人・集団）をアセスメントすることができる。</p> <p>3) 生活習慣や環境から、潜在的・顕在的健康課題を予測し、その予防や解決に向けての健康増進活動や施策化、システム化について検討するための分析ができる。</p> <p>4) 地域で展開される保健活動の支援技術（個別、集団、組織へのアプローチ）の基礎を修得することができる。</p> <p>5) 公衆衛生看護活動を展開する上で個人・家族・集団・組織に必要な社会資源や関連職種との連携、社会資源の開発・発掘、施策化、システム化について検討することができる。</p>				
実習計画					
実習期間	実習内容	準備学習(予習・復習等)	必要時間		
2022年6月～11月 5週間(225時間)	<p>実習展開方法：人数：1施設2～4名</p> <p>1) 実習施設</p> <p>① 保健所、市町村</p> <p>② 上記①以外の施設；企業・学校等。</p> <p>2) 学内実習</p> <p>① 施設実習前：学内オリエンテーション、健康教育指導案作成、地区踏査、地域看護診断、事業の事前学習</p> <p>② 実習最終日：総括（グループワーク・プレゼンテーション）</p> <p>3) 実習施設実習内容</p> <p>① 対象の健康課題の調査・分析（地域看護診断）</p> <p>② 保健活動への参加・理解</p> <p>③ 保健活動の実施（保健指導・家庭訪問・健康教育等）</p> <p>④ 健康をまもるしくみづくり・協働活動への参加・理解 実務者からの指導助言を含む</p> <p>4) 実習時間：原則、当該実習施設の執務時間に準ずる。</p>	<p>実習計画表に基づき、日々の保健事業について事前学習をして臨む。</p> <p>毎日の具体的目標を前日に記録に記載して実習に臨む。</p> <p>日々のカンファレンスで課題になったことはその日の内に復習する。</p>	<p>その日のうちに問題解決できるよう予習・復習合わせて毎日1時間程度行う。</p>		
テキスト	なし				
参考書	1・2・3・4年次に地域看護関連科目で使用したテキスト				
成績評価					
方法(割合)	基準				
実習到達度(60%)	実習記録類(実習記録様式3～様式12まで)まとめレポートはルーブリック評価を行う。				
実習態度(40%)	実習態度はルーブリック評価を行う。				
課題(レポート等)に対するフィードバック	記録物は施設実習の作成経過時にその都度フィードバックする。 記録提出後は原則返却しない(大学側で焼却)。				